

専門医の先生が詳しく診察した



### (豊ライオ) が無料検診

#### 奈路、黒滝の無医地区へ

地域に密着した奉仕活動をと、  
南国ライオンズクラブ（東川裕会  
長）が十一月二十五日、昨年に続  
き、無医地区の奈路、黒滝地区で  
の無料検診を行いました。  
当日は、クラブ員の内科、外科、  
整形外科、耳鼻咽喉科、歯科のそ  
れぞれの専門医七人が参加。  
午前中は奈路小で、午後からは  
廃校になった黒滝小で、教室をぞ  
れぞれ専門科に分け検診、保健婦  
さんの健康相談コーナーも設けら  
れました。

午後の黒滝地区では、グリーン  
の健康手帳を持ったお年寄りが続  
々と集まり、日ごろの健康状態を  
説明し、各先生もきめ細かな診察  
をしていました。  
あるおばあちゃんは「病院に行  
くとすると、一日をつぶさなけれ  
ばならず、こんな機会をつくって  
いただき本当にありがたい」と感  
謝していました。

## 補助プール完成

### 校医の浦松さんの寄付で

○日章小○

校医である用村胃腸病院の浦松  
金吉院長が、日章小学校（小笠原  
巧校長、児童三百七十四人）へ、  
低学年用の補助プールを贈り十一  
月三十日落成式が行われました。  
今まで、二十五日の本プー  
ルはありましたが、低学年が  
使う場合は、そのつど水を抜  
かなければならず、また朝の  
水泳は、地下水を使用してい  
るため、体も冷えました。  
そんな事情を知り、低学年の  
子供たちが、十分に楽しく水  
泳ができるようにと、補助プ  
ールの寄贈となったもの。  
完成したプールは、縦十尺、  
横七・五尺、水深六十五センチ、  
一、二年生が利用する予定。  
小笠原校長は「浦松先生に  
は、体育館の建設や備品の購



完成した低学年用の補助プール

## 大篠婦人会がバザー

### 清風園と共催で

大篠地区婦人会（吉田綾夫会長  
会員四百五十人）と土佐清風園（園  
長 沢守道園長）共催のチャリティー  
バザーが十一月二十八日、大篠地



婦人客で盛況だったチャ  
リティーバザー

区公民館で開かれました。このバ  
ザーは回を重ね、今年で五回目。  
婦人会からは、会員の皆さんに  
呼びかけて集めた、日用品や野菜  
など約五百点を出品。清風園から  
は、お年寄りが編んだクッション  
や座ぶとなど二百点が出品され  
ました。  
午後一時のオープンには、約六  
十人の婦人が詰めかけ、瞬く間に  
売り切れてしまいました。この売  
上金は、全額清風園に寄付され、  
施設の運営資金として役立てられ  
ます。

吉田会長は「皆さんに協力して  
いただき感謝しています。今後も  
婦人会の事業の一つとして続けて  
いきます」と、話していました。

地元から11人が参加し学習を深めた



## 同和問題について

### 認識を深めよう

#### ○地区懇談会で公民館を巡回○

各地区に入りひざを交えて、  
同和問題の学習を深めよう一  
と、市教育委員会主催の地  
区懇談会が現在、市内百二十  
五の部落公民館を巡回してい  
ます。

この事業は、五十七年十一  
月から始まり三年目。今年、  
日章、稲生、三和地区を対象  
に十月から巡回。十一月二十  
八日には、黒改田小田村公民

館を訪問。市教委からは助言者と  
して、中央教育事務所の岡林良先  
生、長岡小の山崎マリ先生が出席、  
地元からは十一人の方が参加しま  
した。

まず、岩原智社会教育課長が「今  
日は、皆さんに同和問題の学習を  
深めていただき、また地区の問題  
についてもお話をうかがいたい」  
とあいさつ。  
地区の問題が話された後、同和

が参加して行われました。

参加チームは、一般七、  
高校十三、中学十三、小学  
十三の計四十六チームで、  
それぞれ熱戦が繰り広げら  
れました。

市内からは七チームが参  
加。特に小学生の部では、  
南国道場の子供たちが活躍。  
惜しくも優勝は逃したものの、  
見事準優勝に輝き、日  
ごろの練習の成果を十分に  
発揮しました。

## 小学生の部 南国道場が準優勝

### ▲県下南国柔道大会▲

第十七回県下南国柔道大会が十  
一月十一日、約二百五十人の選手



小学生の部で健闘した南国道場

この日、両地区で検診を受けた  
方は計七十一人。ライオンズクラ  
ブでは、今後も毎年この事業を続  
けていくとのこと。

研修では、スライドを使って、幕  
藩体制の下でつくられた「部落の  
歴史」について詳しく勉強。岡林  
先生が、「放っておけばなくなる  
のでは」と言われる中で、時代が  
変わっても差別が依然として続い  
ている現状や行政での取り組みなど、

## 公営下水道シリーズ

市公共下水道事業は、昭和五  
十七年度に建設大臣の認可を受け、  
下水道事業特別会計を新設してス  
タートしました。

現在、流域下水道への接続点の  
約百五十ヶ所上流側（南小籠）で、  
汚水管の埋設工事が行われていま  
す。この公営下水道について、広  
く市民の方々に知っていただくた  
め今回からシリーズで紹介しま

## 下水道の役割

下水道は家庭や工場などから出  
る排水を一カ所に集め、処理場で  
きれいな水にして河川に戻してい  
くのが役目です。  
雨として降った水は河川へ流れ、  
海に流れ込み、そして、蒸発して  
空に戻るという自然の循環作用を  
繰り返しています。人間をはじめ  
あらゆる生物は、いろいろな形で  
この水を利用して生活しています。  
私たちの生活にとってかけがえ

のない水は、一度使用すると汚水  
となり、河川や家の周りの側溝な  
どに排出されています。しかし、  
側溝は汚水を流すには好ましく  
なく、詰まることもあり、どぶ化  
して悪臭やばえ、蚊の発生原因と  
なります。また、汚水のまま河川  
へ流れていきますので、水質汚濁  
の原因ともなります。

市街化区域では、住宅やマンシ  
ョンなどが建築され、人口も増え、  
家庭汚水も多量に排出されるよう  
になりますので、自然浄化の限度  
を越え河川等の汚濁は、ますます  
進むこととなります。

また、産業の発展に伴い工場等  
の排水も多くなつてきますから、  
今以上の環境整備が必要となり、  
この問題を解決するためにはどう  
しても下水道が必要です。

下水道事業は、都市計画事業の  
一環として行われています。住み  
よい環境づくりのため、皆さんの  
ご理解とご協力をお願いします。

【都市計画課】